

溶連菌感染症 (A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

扁桃炎などの上気道感染症、皮膚感染症、猩紅熱などが主な疾患です。

菌の侵入部位や組織によって様々な症状を起こします。

学童期の小児に最も多く、冬季および春から初夏にかけての2つの流行期が認められています。

・ 潜伏期間

2～5日、膿痂疹(とびひ)では、7～10日

・ 感染させるおそれのある期間

潜伏期間から10日間程度

※抗菌薬投与にて24時間以内に感染力は失せますが、処方された薬は飲み切ることが大切です。

・ 感染経路

- ・飛沫感染
- ・接触感染

・ 症状

症状がある期間：1週間程度

- ・突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。
- ・咽頭発赤や莓舌がみられることがあります。
- ・年長児や成人では扁桃炎が現れ、発赤毒素に免疫のない人は猩紅熱と言われる全身症状(発熱開始後12～24時間で出現する点状紅斑様、日焼け様の皮疹)を呈します。

・ 治療法

抗菌薬

・ 予防法

- ・うがい、手洗い(流水と石けんで十分に行う)